

ねん がつ にち
2022年5月29日

しゅ しやうてん しゅじつ
主の昇天の主日

きくち いさおだい しきやう
菊地功大司教 メッセージ

おんちち とびだ しゅ ま あ でし ぼうぜん たたず
御父のもとへと旅立たれる主を目の当たりにして、弟子たちは呆然と佇んでいました。
し とげんこうろく でし たい てんし ひと てん み あ た
使徒言行録は、その弟子たちに対して天使が、「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立
っているのか」と語りかけたと記します。天使の呼びかけは、ただ呆然と立ち尽くすの
ではなく、イエスが再び来られることを確信しながら、その日まで、与えられた使命を果
たして生きよという、促しの言葉であります。

でし なに うなが ふくいん し とげんこうろく
弟子たちは何をどのように促されていたのでしょうか。ルカ福音も使徒言行録とともに、
せいれい みちび やくそく ち は いた しょうにん
聖霊による導きの約束と、「地の果てに至るまで、わたしの証人となる」というイエス
の言葉を記します。すなわち弟子たちは、自分勝手に何かを語るのではなく、神の聖霊
に満たされ導かれて、イエスの言葉と行いについて、世界中の人たちにあかしをする
ふくいんせんきやうしや うなが
福音宣教者となるように促されているのです。

じぶんがって す かた せんきやうしや せいれい みちび しゅ
わたしたちは、自分勝手に好きなことを語る宣教者ではなく、聖霊に導かれて主イエ
スのことば おこな かた ちゆうじつ せんきやうしや おも
スの言葉と行いを語る忠実な宣教者でありたいと思います。

ねん がつ にち かいちやく ほっぴやう う まいとし がつ
2015年5月24日に回勅「ラウダート・シ」が発表されたことを受けて、毎年5月には、
「ラウダート・シ週間」が設けられ、教皇が呼びかけた総合的エコロジーの視点から、
わたしたちの共通の家である地球を守るための道を模索し、行動を決断するときとさ
れています。

ことし しゅうかん がつ にち にち
今年の「ラウダート・シ週間」は5月22日から29日までとされ、そのテーマは、「とも
みみ かたむ あゆ
に耳を傾け、ともに歩もう」であります。「ともに」と言う呼びかけは、もちろんシノ
ドスの道程を今ともに歩んでいるからに他なりません。教皇フランシスコは回勅に、「皆
みちのり いま あゆ ほか きやうこう かいちやく みな
がともに暮らす家を保護するという切迫した課題は、人類家族全体を一つにし、持続可能
いえ ほご せつぱく かだい じんるいかぞくぜんたい ひと じぞくかのう
で総合的な発展を追求するという関心を含んでいます」と記されました。残念ながら、
そうごうてき はってん ついきやう かんしん ふく する ぎんねん
この数ヶ月、わたしたちはこの共通の家を争いの場としてしまい、武力の行使は地球
すう かげつ きやうつう いえ あらそ ば ぶりよく こうし ちきやう

を荒廃させ、さらには環境の中心にある賜物であるいのちを暴力的に奪い去ります。
人類家族全体は、残念ながら一つにはなっておらず、共通の家に対する配慮は後回しに
されています。

わたしたちはこの現実の中で、キリストの福音をあかしするものとして遣わされています。
教会を導く聖霊は、わたしたちにこの現実の中で何をあかしするようにと導いて
おられるのでしょうか。

創世記には、神が人を創造されたときに、互いに助けるものとして共に生きるようにと、
二人の人を創造していのちを与えられた事が記されています。わたしたちは互いに助け合
うようにいのちを与えられました。いのちを守らず、他者への配慮を忘れた世界には、神
の平和がありません。

回勅「ラウダート・シ」で教皇フランシスコは、神が創造されたものは、一つとして他者
と関係なく勝手に存在するものはなく、すべてが密接につながっていることを指摘し、
こう記しています。

「密接に絡み合う根本的な三つのかかわり、すなわち、神とのかかわり、隣人とのかか
わり、大地とのかかわりによって、人間の生が成り立っていることを示唆しています。聖書
によれば、いのちに関わるこれら三つのかかわりは、外面的にもわたしたちの内側でも、引
き裂かれてしまいました。この断裂が罪です」(66)

福音を告げしらせるようにと遣わされているわたしたちには、この世界において、三つ
のかかわりが引き裂かれている状態を修復させる務めがあります。神が望まれる世界
は、「創造主と人間と全被造界との関係」が修復され、調和が実現している世界である
はずです。